

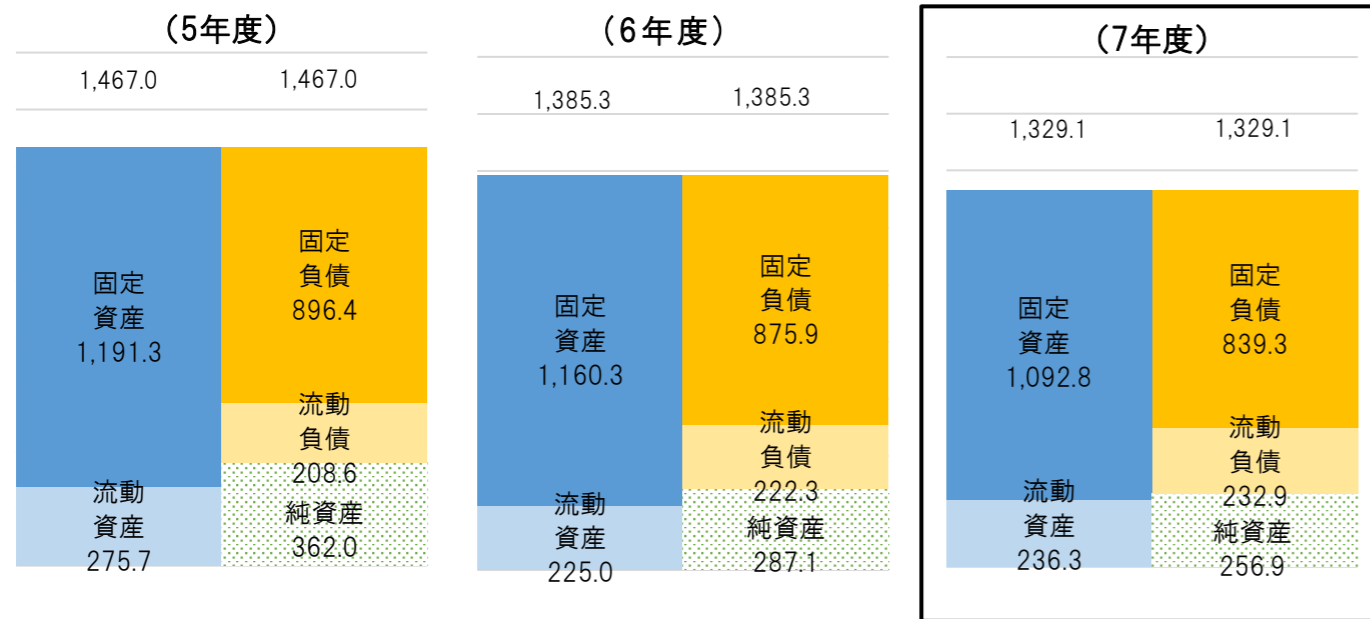
地方独立行政法人大阪府立病院機構 令和7年度決算のポイント

I 財政状況（貸借対照表より）

- 1 資産合計額は1,329.1億円（前年度比▲56.2億円）
⇒ うち土地、建物、器械備品等の有形固定資産は1,002.8億円（前年度比▲45.5億円）
- 2 負債合計額は1,072.2億円（前年度比▲26.0億円）
⇒ うち大阪府からの長期借入金残高は573.2億円（前年度比▲24.6億円）

■ 貸借対照表の推移

（億円）



■ 主な項目の増減(前年比) (億円)

資産の部	負債の部
土地 378.0 (-)	資産見返負債 26.1(▲3.7)
建物 458.3(▲32.8)	長期借入金 526.1(▲25.2)
器械備品 144.1(▲14.0)	リース債務 69.9(▲10.8)
建設仮勘定 3.5(+1.0)	一年以内返済長期借入金 47.1(+0.6)
現金及び預金 18.7(▲7.2)	医業未払金 66.3(+13.3)
医業未収金 195.4(+13.8)	未払金 54.3(▲6.4)

■ 長期借入金残高推移 (億円)

	5年度	6年度	7年度	増減
長期借入金	619.9	597.9	573.2	▲24.6
移行前分	1.3	0.6	0.3	▲0.3

■ 純資産の内訳 (億円)

	5年度	6年度	7年度	増減
資本金	213.0	212.6	212.6	なし
資本剰余金	184.2	184.2	184.2	なし
利益剰余金	▲35.2	▲109.7	▲139.9	▲30.2
計	362.0	287.1	256.9	▲30.2

II 経営成績（損益計算書より）

- 1 本業の売上高を示す『医業収益』は948.0億円（前年度比+30.2億円）
- 2 本業の儲けを示す『営業損益』は12.3億円の黒字（前年度比+35.8億円）
- 3 営業損益に利息の支払い等を含めた『経常損益』は37.3億円の赤字（前年度比+33.4億円）
- 4 最終的な儲けを示す『当期総損益』は30.2億円の赤字（前年度比+44.3億円）

■ 主な項目の推移

（億円）

	5年度	6年度	7年度	増減
医業収益	890.6	917.9	948.0	30.2
運営費負担金収益	73.9	74.3	94.0	19.7
補助金等収益	13.4	5.4	17.6	12.2
営業収益	985.6	1,004.2	1,064.9	60.7
給与費	441.8	458.7	463.3	4.6
材料費	295.8	304.3	325.0	20.7
減価償却費	84.2	84.5	86.7	2.2
経費	160.4	161.2	158.3	▲2.9
医業費用	990.9	1,017.4	1,042.2	24.8
営業費用	1,000.6	1,027.8	1,052.7	24.9
営業損益	▲15.0	▲23.6	12.3	35.8
営業外収益	8.9	8.9	9.4	0.5
財務費用[利息]	2.7	2.7	2.9	0.2
控除対象外消費税	45.3	47.9	50.3	2.4
営業外費用	53.2	56.1	59.0	2.9
経常損益	▲59.3	▲70.8	▲37.3	33.4
臨時利益	0.0	0.0	10.0	10.0
臨時損失	0.6	3.7	2.8	▲0.9
当期総損益	▲60.0	▲74.5	▲30.2	44.3

収益面（主なもの）

- 医業収益**
 > 入院単価の上昇と患者数の増加に伴う増収
 > 大阪府：物価高騰対策一時支援金等（1.1億円）
- 運営費負担金収益**
 > 経営基盤強化支援負担金（20.0億円）
- 補助金収益**
 > 国：賃上げ・物価上昇に対する支援金（9.8億円）

費用面（主なもの）

- 給与費（医業費用）**
 > 職員数の増加等に伴う増加
- 材料費（医業費用）**
 > 高額薬剤等の購入数に伴う増加
- 減価償却費（医業費用）**
 > 器械備品等の購入増に伴う増加
- 経費（医業費用）**
 > 経費の節減等に努めたものの、委託料等は増加

■ 経営指標(主なもの) (%)

	R5	R6	R7
給与費比率	50.0	50.4	49.3
材料費比率	33.2	33.2	34.3
経常収支比率	94.4	93.5	96.6
医業収支比率	89.0	89.3	90.1

概況

- > 収益面では、入院単価等と延べ入院患者数等の増加し、医業収益が過去最高の収益になったことに加え、運営費負担金収益における経営基盤強化支援負担金20.0億円や、補助金等収益（経済対策補助金・物価高騰対策支援金）10.9億円などが営業収益を押し上げ、1,064.9億円（前年度比60.7億円増）となった。
- > 費用面では、職員数の増加等に伴い給与費が増加し、また、材料費は高額薬剤等の購入に伴い増加した。経費は、R6年度に計上した住吉母子Cの剰余金の配分を除けば、委託費等が増加しており営業費用は1,052.6億円（前年度比24.9億円）となった。
- > この結果、営業損益は12.3億円の黒字（前年度比で35.9億円の改善）となった。
- > 経常損益では、控除対象外消費税等が増加し、37.3億円の損失を計上した。臨時損益では、システム障害と解金10.0億円、および障害復旧委託料の1.8億円などを計上し、当期総損益は30.2億円の損失となった。

III キャッシュフロー

（億円）

	期首残高	業務活動	投資活動	財務活動	期末残高	資金増加(▲減少)
5年度	87.2	69.9	▲48.4	▲43.8	64.8	▲22.3
6年度	64.8	25.8	▲22.9	▲41.9	25.9	▲38.9
7年度	25.9	53.1	▲12.3	▲48.0	18.7	▲7.2

IV 行政コスト計算書

（億円）

	7年度
行政コスト	1,114.5
[参考] 運営費負担金収益	94.0

- > 法人の業務運営に関し、最終的に住民等の負担となるすべてのコストを集約し、表示したものの。